

【事業名】 今和泉たまごベンチ事業

今和泉町内会	地域福祉課
(1)協働の相手方と信頼、尊重し合う関係を意識しながら企画事業を行うことができましたか。	
<p>昨年度末にお話し（問い合わせ）があり、町内会全体に相談をし、町内の活性化に繋がるということで、事業を引き受けました。</p>	<p>町内会を信頼し主体性を尊重することで、町内会、市それぞれの必要な取組や支援を行うことができた。</p>
(2)事業の課題認識と目的を協働の相手方と共有することができましたか。	
<p>町内住民同志の仲の良さがあるとは自認しておりましたが、よりよいコミュニケーションづくりに役立つ計画と理解、考えました。</p>	<p>両者ともに地域における交流の減少やつながりの希薄化を課題と認識し、協働して地域の人が気軽に集まれる場づくりに取り組んだ。</p>
(3)自らは、当初想定した役割を果たすことができましたか。	
<p>当初の予定どおりは進めることが出来なかったが、担当者のご理解を得ながら、ぎりぎり年内には事業完成の日を迎えることが出来ました。</p>	<p>ほかの地域での取組の情報提供、活動への支援、関係機関とのコーディネートなど、当初想定した役割を果たした。</p>
(4)事業の進捗状況や情報を協働の相手方と共有することはできましたか。	
<p>上記に記したとおり、担当者には大変ご迷惑をお掛けいたしました。好結果につながりました。</p>	<p>町内会内での調整に時間がかかったが、それが共有できずに、取組の開始に遅れが生じた。</p>
(5)協働の相手方と互いの特性を活かすことができましたか。	
<p>集う・憩うためのヒント・提案をいただき、即、実施をし、目的を達せたと感じる。</p>	<p>町内会は、地域の人へ参加への働きかけを行い、地域の中心組織として活動を担い、市は支援関係機関との調整やノウハウの提供などを行うなどし、それぞれの特性を活かし事業に取り組めた。</p>
(6)この事業を協働により実施することで効果は上がりましたか。	
<p>大変効果がありました。各集会（テーマを決めての講座）にも、今まで以上に積極的に多数参加者があり、すばらしかった。</p>	<p>地域共生への取組は、町内会だけでは取組が始められないことや、市だけでは地域の実情に沿った取組ができないことがあるなど、それぞれが単独で難しいことが多い。 今回、町内会と市が協働で事業を実施し、共生の取組が図られたことで、今後、町内会だけでサロン会や子どもの遊び場の整備などを町内会で続けることが決まるなどの効果がみられた。</p>

(7)その他、この事業を通じて感じたことや、相手方への要望、制度の改善策等について

- ・ 課題をみつけたら実行に移す。
- ・ 良かれと思ったらしっかり提案する。
- ・ 仲良く楽しく安心して安全に生活していけることが大切である。

今回のような地域と連携した取組は、地域をよく知る地域の人々の自主的な取組を後方からの支援が重要であると感じた。引き続き、社会福祉協議会や地域包括支援センター、地区社会福祉協議会北会津ふれあいネットワークなどと連携し、支援に取り組みたい。

今回の事業では、まだ、取組に参加できなかった児童や高齢者もいることから、そのような人にも参加の呼びかけを引き続きお願いしたい